



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2019年(平成31年)4月15日号 No.1790

目次

■ 2018年のロシア・NIS諸国の経済(上)	1
■ エトセトラ	10
「ロシア工業団地セミナー」のご案内/10	
■ 統計速報	11
2019年1~3月のロシアのブランド別乗用車販売台数/11	
■ トピックス	12
日口200カイリ漁獲割当量、2年ぶりに増加/12	
カザフスタン大統領選、6月に前倒し/12	
日口間のスタートアップ支援を担う協会設立/12	

2018年のロシア・NIS諸国の経済(上)

はじめに

『経済速報』では毎年この時期、前年のロシア・NIS諸国(旧ソ連の新独立諸国)の経済統計を紹介し、各国の最新の経済動向について論評するという企画をお届けしている。本年も2018年のデータがほぼ出揃ったので、早速それを試みたい。なお、モンゴルは一般的にはNISの範疇に入らないが、本レポートの対象に加えている。

まず今号では、全13カ国の主要経済指標を図表にまとめて掲載するとともに、ロシア・NIS全般、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、モルドバについての解説をお届けする。中央アジア諸国(カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン)、南コーカサス諸国(アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージア)、モンゴルのレビューは次号で扱う予定である。各国レビューの執筆は当会ロシアNIS経済研究所のスタッフによるものであるが、ロシアについては本年も北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターの田畑伸一郎教授にご寄稿いただいた。

ロシア・NIS全般： 成長率は上向きながら世界平均は下回る

CIS統計委員会によれば、CIS全体の2018年の経済成長率は、3%(概数)だったと発表されている。一方、IMFがこの4月に発行した最新の『世界経済見通し』によれば、ロシア・NIS全体(ジョージアも含む)の2018年の成長率は2.8%だった。ロシア・NIS全体の成長率は、ウクライナ危機と石油安を背景に2015年にマイナス1.9%を記録したあと、2016年以降プラスに転じ、2016年0.8%、2017年2.4%、そして2018年が2.8%と、回復の足取りは年々確かなものとなっている。しかし、IMF統計によ